

# 令和2年度宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会

## － 第2回理事会－

### 議事録

日時：令和2年11月27日（金）

午後2時から午後3時

会場：みなみのかぜ支援学校

司会：小園 T

#### I 開会行事

##### (1) 会長あいさつ      みなみのかぜ 川越校長

それぞれ各学校今年度は新型コロナウイルスの対応でいろいろご苦労も多かったのではないかと思います。1回目の理事会も、その影響でこのように集まって会議をすることができずに書面でのやりとりというものになってしまった。今も感染が増えてきており、学校行事や日々の授業、職員会議を含めたいろいろな会議のあり方、研修のあり方などに変化を求められている時代に入ってきたのかと感づいているところである。2021年の世界経済フォーラム、ダボス会議というが、その会議のテーマがグレート・リセットである。どういうことかということ、世界の経済、金融、働き方、生き方、教育、あらゆる面でコロナへの対応をどう変革してよりよいものに、人々が幸せに生きていくためにどうしたらいいのか、世界の有識者が集まって会議をするダボス会議が、グレート・リセットである。教育の分野においても、今まで当たり前だったことがなかなかできない、そういう時代になっている。今後は当然、変化が求められる。日々の授業のみならず、このような会議、それから大きな研究大会こういったものも含めてグレート・リセットしていかななくてはいけないと思う。ウィズコロナの時代だからこそ、できる環境を整えて、どうやって工夫してやっていくのが求められるという時代になっているのではないかなと痛感させられている。今日はこの後、来年度開催の知的部会の研究大会、日向ひまわり支援学校の方でいろいろと苦労されながら準備をしていただいているが、このコロナに合わせてどのような形の大会にしていくのが協議の中心となると思うので、いろいろ知恵を出し合っていけばいいかと思っている。いろいろ忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

##### (2) 本日の日程、配付資料確認

式次第が書かれたレジュメ・令和2年度九州地区特別支援教育連盟第2回評議員会資料  
令和2年度宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会第1回理事会資料  
研究大会ローテーション

##### (3) 出席者自己紹介

一人一人自己紹介をしていただきたかったが時間の関係で省略。

##### (4) 今後の流れについて      みなみのかぜ 小園 T

###### 1. 理事会について

今回は2回目の理事会となる。第3回目の理事会を令和3年2月5日に開催予定

###### 2. 令和3年度宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会の理事選出について

2月5日に、来年度の理事になられる先生方のFAXの資料などを配るので、確実に次年度の先生に引き継ぎをお願いしたい。今年度は、コロナの関係で会などが開けなかったところもある。理事が誰になったのかが事務局側が把握することが難しく、連絡などが遅くなってしまったケースがあったので、次回の理事会で詳しく説明させてもらいたい。

### 3. 令和元年度以降の九特連・全特連大会提案者について

令和2年度は九特連と全特連が併催されて長崎県で行う予定であったがコロナで中止となった。令和3年度は九州大会が熊本県、全国大会は和歌山県が開催地になっている。九州大会は、みなみのかぜ支援学校の方で「合理的配慮の実際」について発表が決まっている。西都・東児湯地区で「交流及び共同学習」の発表校も決まっていると思うが、分かっているらっしゃれば教えてほしい。また、こちらで確認する。令和4年は九州大会が沖縄、全国大会は秋田県である。みやざき中央支援学校が第6分科会で発表・提案となっているが、テーマについては現在、開催県の方に問い合わせ中。決まり次第お知らせしたい。あわせて、日向・延岡・西臼杵地区の自立活動の発表についてもどこまで決まっているか分かり次第お知らせしたい。日向・延岡・西臼杵地区で発表者が決まっていたら教えていただきたい。またお伺いする。

#### 【質疑】みなみのかぜ 川越校長

この表を初めて見られる方はいらっしゃいますか。

#### 【応答】会場にいる先生方

ほぼ全員挙手

#### 【補足説明】みなみのかぜ 川越校長

理事の先生は毎年、変わられる。前年度からの引継ぎ等で、自分の地区が発表になるのだとびっくりされている方も多いと思う。

### 4. 九特連大会（全特連大会）開催輪番について

平成19年から表になっているが、令和2年度は第54回の九州大会と第59回の全国大会を併催して長崎県で行う予定だったがコロナにより中止となった。令和3年度九州大会は熊本県で開催予定となっている。令和10年度は宮崎地区が開催地区となっており、みなみのかぜ支援学校（事務局）を中心に行っていく。

### 5. 九特連大会提案輪番について

分科会で発表する提案者の輪番となっている。第6分科会、第7分科会は各開催県で独自に決定する内容と書いてあるが、詳しく分かり次第、令和4年に行われる九特連で発表予定であるみやざき中央支援学校へお知らせしたい。

### 6. 全特連大会の九州地区からの提案担当輪番について

令和2年度の長崎大会は中止となっている。令和3年度以降については現在問い合わせ中ということで、こちらも決まり次第お知らせしたい。

### 7. 令和3年度九特連熊本大会について

交流及び共同学習が西都・東児湯地区が提案者となっている。合理的配慮の実際につい

てはみなみのかぜ支援学校から発表・提案を行っていく。合理的配慮の実際の司会・助言者も宮崎県となっている。司会・助言者についてはみなみのかぜ支援学校で担当を決めてお知らせしたい。

【補足説明】 宮崎市立住吉中学校 小野 T

令和元年度以降の九州特連全特連大会提案者等について

九州大会へ宮崎からの提案校の欄に小学校・中学校があるが、毎回、交代で提案を行っている。令和3年度熊本大会は、東児湯が発表になっている。令和4年度の沖縄大会は日向地区が行うことになっている。日向地区の方で提案をしてほしい。また、令和5年度、日南・串間地区「作業・進路」があるが今回は串間地区が担当であるのでお願いしたい。まだ事務局には確認をとっていないが、次の年に宮崎・東諸県が入って、都北・西諸県がその次に入ることになると思う。ここはまた、確認してお知らせしたい。令和6年度の担当が宮崎地区になり令和7年度は西諸県地区が担当となる。

【質疑】 小林市立西小林小学校 磯田 T

今お聞きした感じだと、令和6年度は教科別の指導になり、令和7年に生活単元学習という計画でよろしいか。

【応答】 宮崎市立住吉中学校 小野 T

はい。

(5) 第54回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「熊本大会」について

みなみのかぜ 川越校長

本来ならば九州特連の理事・評議員会が行われ、そこで審議をされて決定という形になるが、今年度は長崎大会が中止となり、理事・評議員会も1回も開催されずに今日を迎えている。熊本の会長からも連絡があり、今の段階で考えている案を送付しますという形で送られてきたのが手元にあるプリントになる。新型コロナウイルスの感染症対策を踏まえた上でどのような大会にしていくのかというのを今、熊本県の方でも揉んでいるという話だった。期日は8月5日、6日。大会主題が、「10年後を見据えた特別支援教育の推進」というテーマの元、「新しい時代に求められる教育とは」ということで考えている。日程だが、この大会はオンラインを考えている。ただ、1日目の午前中に理事・評議員会があるが、各県の代表が集ってそこで今年度の計画、来年度の沖縄大会の実施案内そのあたりについて協議をする会になるので、これを午前中に行うことになっている。各県の代表の理事が参加することになる。総会・開会行事はZOOMで運営委員の方々にしてもらい、発表・司会・助言者・記録・運営担当者は、ZOOMにより打ち合わせを行うということになっている。発表・司会・助言者・記録・運営担当者の打ち合わせを評議員会と兼ねる形で午前中11時くらいからZOOMで各県つないで行われる。その後、発表・司会・助言・記録者については熊本の方に移動して、熊本からつなぐことになる。2日目については、分科会90分とミニ講話ということになっているが、分科会提案は、各分科会3本で、提案20分、発表は1週間前からオンデマンドによる配信を行う。従来だと、発表者の方が20分その場で発表するという形になるが、オンデマンドですでに配信をし、皆さんはそれを見た上でこの会に臨むことになる。そして、チャット機能を使って意見を集約し、この分科会の時には研究協議の前にそれぞれ発表者が5分ほど補足説明を行なった後、質疑応答、質疑はZOOMのチャット機能を使って行う。そして、研究協議、そして助言者が各分科会2人ずつということで、県外の助言者が発表者

に対して、県内の助言者がミニ講話を担当して15分、15分の30分という流し方を考えているようである。分科会の提案については、7月上旬までに収録編集を行い7月末から配信をして、それを事前に見ておくということである。発表関係者については、2日目に会場に集合するということになる。このいろいろな手順は、後日、提案するという事になっている。気になることが、九特連は小学校・中学校の特別支援学級の先生方もたくさんいらっしゃるの、熊本から宮崎県をZOOMでつなぐ際に、あまりにも会場数が多いと支障をきたすのではないかと考える。熊本の方へ各県とつないだ場合、3会場などと限定されるのか、何会場だったらOKなのかその辺を含めて間合わせをしている。当然、入るときにパスワードなどがあるかと思う。どこの会場から配信、やりとりができるのかということも全然見えない状況なので、そのあたりについても問い合わせをしている。分かり次第お知らせしたい。講演については、「新しい時代を見据えた特別支援の在り方」をテーマに、オンデマンドで流し、8月末まで参加者は自由に閲覧できるようになっている。今までの九特連大会とは全然違う大会になるのではないかと思う。予算などのいろいろな計画や次の大会の沖縄大会はどうするのかなどは全然出てきていないので、次年度の1回目の評議員会でそのあたりについては確認があるのかなと思う。分科会であるが、第6分科会が小中学校、第7分科会がみなみのかぜの方で行うことになっている。いろいろまだわからない点も多いが、詳しいことが分かり次第お知らせしたい。

【質疑】 日南くろしお 細田 T

※印の2番目に書かれている評議員会は、上の方に書かれてある総会・評議員会のことでよいか。

【応答】 みなみのかぜ 小園 T

各県でZOOMでライブ配信を視聴する形になる。

## II 第1回知的部会研究大会実行委員会

### (1) 大会実施説明 日向ひまわり支援学校 飯干 T

令和3年宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会研究大会の案を今からお話ししたいと思う。担当校は日向ひまわり支援学校である。令和2年度新型コロナウイルスの関係上、県内で開催予定だった九情研、そして南那珂ブロックが担当だった県特研連、全特連の長崎大会も中止になった。先生方の学びの場であるはずの研究大会、研修会等がすべて中止となった1年になったと思う。来年度に向けて、本研究大会の担当校である本校では、5月から従来通りの研究大会の計画を立ててきた。ただ、終息の見通しがもてない中での従来の形、そして中止を見込んでの計画立案というところを見直して、新しい形での研究大会運営を考え直した。特別支援学級の設置校は宮崎市内だけでも69校ある。知的教育部内に加盟している学校262校、特別支援学校が8校となっていて、計270校ということになる。本研究会及び研究大会の目的をもう一度見たところ、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の在り方、会員の資質の向上と本県特別支援教育の充実・発展、特別支援学校及び特別支援学級設置校相互の連携が目的となっている。そこで、次年度の研究大会のコンセプトを「学びを止めない」とする。今年のような空白の1年とならないように学びを止めないということをコンセプトとして、先生方が学び続けることができるような大会運営を考えている。開催の方法はオンラインもしくはオンデマンド、主にオンデマンドというところを押していきたいと考えている。実際に体験されたことのある方はイメージしやすいと思うが、ここで少し本校が今年度、学びを止めないためにやってきた校内研修を実際にお示しできたらと思う。本来は、誰かに来てもらって校内研修を行うのだが、今年度はこのコロナの状況の中で何をどのようにしてい

たらよいかというところで、熊本大学附属特別支援学校の方に依頼をしてオンライン、ライブ中継での校内研修を行った。この時ちょうどコロナの感染拡大に伴い分散型でオンラインの研修を行っている。今年度の研究が各教科で分かれているので7つの教科担当者が窓口、そしてそこにあと一人参加するような形で、本校が14名対熊本の先生1名でお願いをして中継を行った（実際の様子動画を見る）。これがオンラインでの研修である。次に、オンデマンド。これは後から配信になる。校内研修なので本校全職員が受けることになる。リアルタイムで受けた方以外の方々にメールを送信している。研修センターの方へ依頼をしてYouTubeの解除をしてもらっている。本校と熊大附属特別支援学校の職員限定の動画という形でサイトを開けてもらっている。このURLから学校や自宅のパソコン、スマホ、タブレット等でも視聴できるように環境設定をした。このような形で本校の全職員が研修を受講している。視聴後はアンケートの提出を全員お願いしたので、全員履修済みという形で確認もとれている。自宅で好きな時間に好きな場所で受講できる、これがオンデマンドの形である。では、大会について。次年度の大会に向けて、まだ仮の段階ではあるが、大会主題を「多様な子供たちが自分らしく生きるみやざきの特別支援教育」としている。知的障がいだけでなく大きく枠組みをしたので、仮設定をさせてもらっている。趣旨として、本県、今、知的障がい特別支援学校が各エリアに設置され、また、高等学校による通級指導教室等も設置されている状況である。そうすることで誰もが学べる環境が整備され多様な学びに向けた取組が進められている。これから特別支援教育が特別ではなく誰もが指導支援を行えるように子供理解を深めていくこと、子供達のつまずきの背景を理解した上で様々な手立てや技法を教育技術として私たちは蓄積していくことが求められているのではないかと感じている。そこで、障がいの有無にかかわらず誰もが相互に人格と個性を尊重し合うみやざきを目指し、特別支援教育の理念や基本的考え方がどの校種にも共有され、本県の特別支援教育の更なる充実・発展へとつなげていきたいと考えている。7月27日（火）午後1時から3時までを本大会の期日として設定している。7月28日から8月31日までをオンデマンドの配信ができるように整えていきたいと思う。会場となる場所だが、撮影や収録、編集ということになるが今現在では宮崎県教育研修センターにご相談している。ただし、研修センターはすべての研修を担っている場所なので、こちらがダメな時のことなども検討している。そうすることで申し込み学校へ配信という形がとれるのかと考えている。研究大会の内容は、今回、講演のみとする。講演の依頼もすでに終わっているが、東京都立矢口特別支援学校主任教諭である川上康則先生に依頼。今回、「発達につまずきがある子供を輝かせる授業と学級経営」という演題で講師依頼をしている。先生は、特別支援教育士スーパーバイザーとしてもご活躍されている。いろいろなところから講師依頼が殺到していて、このコロナ禍の中で、オンラインで研修を受けると3回で8000円とか、そういった形でいろいろな研究機関が行っている。NHKのストレッチマンゴールドの番組委員でも有名な方である。多くの書籍もあり、自分も先生の本を何度も読ませてもらい子供の見方などを見直してきた教師の1人でもある。本大会では小中学校を含む県内の多くの先生方に改めて特別支援教育の視点、そして教師としてどう学ぶかということ川上先生から示唆していただきたいと考えている。現在は、教育技術の小1から小2の連載も話題になっている。日程は、1時から3時と先程伝えたが、接続確認等をその前に行う。1時から開会行事、と言っても長い開会行事にはならないが、あいさつと講師紹介をして、講演後にはあいさつと謝辞という形で入れている。申し込みについて先生方に意見をいただきたい。案1が申し込みをこれまで通り希望性で行うならメールにて学校単位での申し込みをお願いする形。これは、校内でそれぞれ研修を行うことができればいいなと思っている。案2は、申し込みを加盟校すべてに配信する形、

270校すべてにURLを送るということも考えている。研修を行った後、そのまま終わるではなく、アンケートをさせてもらいたいと思っている。これも紙媒体ではなく、QRコードを読み取るか、もしくは資料に添付したリンク先に入力してもらうかという形で。様々なネット環境を活用しながら方法を考えていきたいと思う。実行委員会だが、本校のメンバーで構成して現在動いている。現在のコロナの状況で他校との会議の実施が厳しい、そして、研究大会の内容が複雑ではないというところで分担する業務が少ないので、本校だけで何とかこれを運営していきたいと考えている。働き方改革の今、簡素化もちろん大事だが、きちんと目的を果たせる方法で実施をしていきたいというところから校内組織で運用を考えている。理事会の方々も役割はということだが。ここで最初に挙げた目的、会員の資質の向上と本県特別支援教育の充実・発展に趣きをおいて理事会の方々にお力をお借りしたいと思っている。そこで、周知と拡散をお願いしたい。各校、各地域で行ってほしいことは、各校・各地区でしっかり研修会を開いていただきたい。大がかりな研修ではなく、小・中は特に特別支援に関する校内研修等を実施されていると聞いている。地区研修、エリア内でも研修会を行っているようである。これを代替として活用していただけないかということである。可能であれば、校内研修の方をぜひ押していきたいと考えている。今回、オンライン・オンデマンドが承認を得られれば、ここで決定という形で我々は動いていくわけだが、この後、理事会の先生方、来年度の研究大会がオンラインだと知る。そしてこの後、各校の特別支援教育の研修をこれにしてはというのをエリアの中で口コミで広げてほしい。提案をしていただけたらと思う。各校戻ったら、管理職の先生に報告して、もうすでに次年度の8月あたりに職員研修の1つとして予定を組んでいただくというのが我々の考えでもある。今まで300人ほどしか参加できなかった本大会だが、今回所属校270校ある。この270校のうち目標は、70%、189校何とかいけなかなと目標をあえて高くあげている。そのため研究大会の案内については、活字でいつも実施要項を送っていたが、これにこのような今は案だが、カラーのポスター、チラシ等を各学校に配布して掲示してもらうようにしていきたいと思う。本日の提案事項、オンラインとオンデマンドの大会運営、申し込みか加盟校すべて配信というシステムをとるのか、理事の役割を周知・拡散でいいのかというところで3つ提案をしたいと思う。最後にオンデマンドの良さ。各学校の職員研修で視聴できる。管理職も含め、みんなが学ぶ機会になる。特担の先生が仲間を増やせるチャンスかもしれない。みやざきの特別支援教育の充実と発展につながるというふうに考えて提案を終わらせてもらいたい。

**【補足説明】 日向ひまわり支援学校 種子田校長**

次年度の大会の方向性ということでお示しをさせていただいた。県特研連が小・中・特別支援ということで広い範囲での校種での研究大会ということなので、まずは特別支援教育の先生方の専門性の向上を含めて何かできないか。学び続けていくことが大事かなということになれば、やはり研修を切らさないで提供できる方法はないかということ悩んで、どういった方法ができるかといったところで進めてきた。そしてもう1つは、多くの先生が学べるにはどうしたらよいか。実は昨年、日向地区の方で小学校を中心にに行い参加の方が300名近くあったが、参加メンバーを見ると地域を中心にして遠方の方はなかなか行けない、行きたくても行けないということがあった。これがどうにかならないかという話もあり、こういったやり方はいいよねと進めてきた。このやり方でいけば、県内どこでも見れる、時間帯も実情に合わせて見ることができる。もう1つは、これから先、研究大会等を開くにあたって、先生方に負担をおかけし、会を設定しないといけなくなる。今回のやり方は、もしご承認いただければ、実質やっていくの本校で計画等させてもらう。この理事会の方で提案させてもらいご意見をうかがっ

て、やり方等を工夫して本大会に臨めばというふうに思っている。もう1つは予算について。研究大会を開くにあたって1番の予算が会場費。これを工面するのにすごく大変なところがある。こういうやり方をするので、予算をかなり縮小して講師の先生に予算をあてるということもできるし、その余った分を今度は他のところにまわせるのかなと思う。予算に関しても大変な状況下でもあるので、メリットの方が大きいかなと思い、来年度、このやり方をさせてもらい、これがすべてではないので、自分たちがこのやり方をさせてもらい検証してもらって今後の知的部会の研究大会及びその他の研究大会の参考になればということで提案させていただいた。忌憚のないご意見をいただきながら、計画等についてはまた提案させてもらうが、今日は今後進めていくにあたってこのやり方を承認していただければこれで進めていきたいと思っている。

**【提案】** みなみのかぜ 小園 T

次年度の研究大会の方向性について提案事項ということで、オンラインまたはオンデマンド、申し込みか加盟校すべてに配信、理事の役割として周知・拡散ということで提案があったが、承認いただける先生方はこの場で挙手をお願いしたい。

**【承認】**

全員挙手

**【補足説明】** みなみのかぜ 小園 T

ありがとうございます。私個人としても、加盟校すべて配信していただけるとすごくありがたいなと思っている。また、準備等これから大変だと思うが、事務局としてもできる限り一緒にやっていきたいと思う。

**【補足説明】** 日向ひまわり支援 種子田校長

会の日程は、講師の先生の関係で動かさない。もしよろしければ、ここを中心に校内研修等の日程を組んでいただければと思う。今のところ、会場は研修センターを。もしダメな時は別会場で。みなみのかぜでも。会場は広くないので、理事の先生方のみ来ていただこうかと一次案では考えている。これをまた計画に起こして担当の方からお知らせしたいなと思っている。

**【質疑】** 日南くろしお 細田 T

新しい形での提案、ありがとうございます。作品展はどのような形で行っていくのか。

**【応答】** みなみのかぜ 小園 T

研究大会ローテーションに書かれているが、令和3年の企画運営を日向ひまわりに、お弁当・受付関係、作品展示にそれぞれ支援学校を中心に名前が入っているが、これはコロナが発生する前のローテーションである。現在、このような状況もある中で作品展示やお弁当に関しては、それぞれの開催校からの提案があるかなと考えている。ローテーションに名前が入っているがこれに限らず、作品展示は今回はなくすなど、簡略化した形で実施というところをそれぞれの企画運営の学校の方からご提案いただければと思っている。

**【補足説明】** みなみのかぜ 川越校長

今後また、日向ひまわりから具体的な提案があると思うが、従来のようにどこかの会場を貸し切って作品を展示するというのはまずないと思う。不可能だと思う。そうなった時には、作品をホームページ上にアップするなり、そういったオンラインでのいろいろな紹介ができるのではないかと思う。そういう工夫をしながらやっていけたらいいのかなと思う。研修センターを第一の会場に、もしダメな時なみなみのかぜのこの会場だと私は考えている。

**【補足説明】** 日向ひまわり 飯干 T

今回、企画運営をこのような形で進めているので、お弁当・受付関係、作品展示等はなくならないということでお願いしたい。作品展示に関してだけではないが、ホームページの充実を特別支援学校は図っていただけたいかと思う。今回、アート展もなくなっていて、アート展の代替案として特別支援学校 13 校は、ホームページで作品を展示する、公開をする予定になっている。そのように少しずつ形が変わっていくのかなと思っている。また、作品とか教材とか、特に小中学校の先生方に求められたのは教材が見たいということがあった。そこを整理して、ホームページを活用して紹介できればいいかなと思っている。そこは次の時にお示ししたい。示されているローテーションでの係分担は無しということでお願いしたい。

**【質疑】** 小林こすもす 藤井 T

とても興味深い講演だと思い話を聞いていた。この内容が「発達につまずきがある子ども」ということで、おそらく知的障がいの学級や学校だけでなく、通常の学級とか、それと関係の学級などにもすごく役立つ内容が盛り込まれているのかなと思う。一応知的の部会だが、知的学校以外での案内とか紹介とかがあればいいのかなと思った。オンデマンドということで、参加者とか学校とか制限がないのでぜひお知らせをすると多くの子供たちが恩恵を受けるのかなと思った。

**【応答】** みなみのかぜ 川越校長

貴重なご意見ありがとうございます。この件については一応知的部会の研究大会ということでやっているのですが、もし他の障がい種への研究大会の案内となると、県特研連全体の理事会である程度了解をとって、その県特研連の障がい種別研究の部会長が集まる会が 2 月にあるので、知的部会としてこのように他の障がい種別の学校に紹介したいということを知り得られればできるのではないかと思います。

**【補足説明】** 日向ひまわり 種子田校長

知的以外の学校でも必要となれば、どのような形で今回、研修が広められるのかは今後になるのかなと思っている。ぜひご意見をうかがっていきながら、可能な限りやっていきたいと思っている。難しいときはすみませんということにはなるかもしれないが、ご意見をたくさんいただき、充実した会になればと思っている。

**【質疑】** 宮崎市立住吉中学校 小野 T

知的設置数は毎年入れ替わりがあるので、5 月 1 日に県教委が把握するが、その後ずれが生じてくる。設置数についてどのタイミングでこの機関に問い合わせをするか。もしも知的設置校だけになれば、2 月ぐらいにできたらと思っている。

**【応答】** みなみのかぜ 小園 T

ありがとうございます。また、2 月にお願いします。

お時間になりましたので、もし他に何かあれば事務局または飯干先生までご意見をお願いしたい。

### Ⅲ 連絡

(1) 全特連について みなみのかぜ 川越校長

和歌山大会が、10 月 28 日・29 日に行われると聞いている。ただ、全特連の理事・評議員会も今年度 1 回も開催されていない。案内もまだ届いていない。従来通りの対応でいくのか、あるいは

はオンライン・オンデマンドでいくのか全然分からない状況である。全国なので、全特連参加がほしい毎年 15000 人ぐらいの大会なので非常に、オンデマンド・オンラインだと配線を含めて大変だろうと想像はしている。まだ分からない状況なので、もし、2月5日までにそういう計画ができればこの場でお示ししたいと思う。

(2) 研究大会ローテーションについて みなみのかぜ 小園 T

日向ひまわりから新しい提案があった。日向ひまわりをスタートにこれからまた研究大会等を進めていくが、日向ひまわりがした形が必ずということではなく、それぞれの学校での企画を今後も考えていきたいと思うので、企画運営の担当になる学校の先生方それぞれのアイデアを出し合っていていただきたいと思う。

#### IV 閉会行事

(1) 副会長あいさつ 日向ひまわり 種子田校長

次年度は本校が担当ということで提案させてもらい、内容の方をご了解いただきありがたく思っている。今後、また、先生方のご意見を伺いながら進めていきたいと思っている。本研究部会が小・中・特別支援学校ということで、支援が必要な子供さんたちがたくさんいるので先生方も悩まねながら日々、指導されているところもあるかと思う。この知的部会が、先生方が学び続けられて少しでも何かのお助けになればと。令和3年度の大会をスタートとして、このコロナ禍なのでどうしていけばいいのかをみんなで考えていければと思っている。そしてまた大会が終わったら忌憚のないご意見をいただいて次の大会に引き継いでいって、この会の充実を図ることができればいいのかなと思う。次回は、また提案を進めていければと思っている。遠方からの先生方もおられるのでくれぐれもお帰りの際は気を付けていただきたい。そしてまたコロナ禍において見えない状況になっている。日々のご指導も大変かと思う。くれぐれもご健康にご留意されながらご指導の方をよろしくお願ひしたい。